

広 報

# ふじかわ

8 月号

昭和57年 8月20日発行

No. 253

## 町のメモ

昭和57年 8月1日現在	
人口	16,962人
増減	+7人
男	8,391人
女	8,571人
世帯数	4,319世帯
面積	31.09km <sup>2</sup>

富士川町 企画開発課



町の今年の目標  
「笑顔であいさつ明るい町に」

## 国鉄富士川橋がプツリ

(表紙の言葉は2ページに)

# 野田山保健休養林造成事業がスタート

## 5年後には私たちの憩いの場に

「余暇」の考え方そのものに大きな変化が生じた——と国民生活白書（昭和56年度版）は指摘しています。

かつては余暇と言えば「労働」と裏返しの関係にある「骨休め」「暇つぶし」のニュアンスを強く持っていました。ようやく余暇も社会的市民権を得たと言えるようで、白書では「余暇を充実させることは、社会的にも労働と匹敵する程度の重要な意義をもつようになってきた」と述べています。週休二日制の普及などによって、労働時間の減少＝余暇時間の増加がみられたこと、生活水準の向上

### 52年ころから 公園計画の声

野田山は、富士川駅の西方約二・一四キロの距離にあり、標高五百三十三メートルの金丸山、五百七十三メートルの平ヶ窪山に連なる山々、その谷間にあたる大師広場などで構成され、蒲原町と由比町とに接しています。また、広場横を林道吉津—金丸線が通り、蒲原町善福寺に続いています。

この野田山は、あなたも一度は登ったことがあるでしょう。それほどここはハイキングコースとして、私たちに親しまれています。そして、古来から霊地としても知られ、大正11年には松橋慈照師が多数の信者から寄進をうけ、真言宗実相院を建立しました。以後、昭和28年の火災によって一山ごとく焼失するまで盛行をきわめ

たそうです。

ここを健康緑地公園に——という計画は、昭和52年ころから高まつてきたもので、昭和54年から三年がかりで調査・設計を行い、今年度、県の補助を受け「野田山保健休養林造成事業」として工事が始められるはこびとなったわけです。この計画によると、野田山を中心とした町有地（八十八万平方メートル）や民有地（十四万平方メートル）の自然環境を生かし、私たちが健康づくりに利用できる約百二十万平方メートル（事業規模四万一千平方メートル）の大きな公園を、約一億五千四百万円をかけ、五年間で作り上げようというものです。

にともなって生活にゆとりが生じたこと、それが余暇に対する考え方に質的变化をもたらしたと言えるでしょう。働くことも大切。だが、余暇を生かし充実した時間を過ごすことも、それと同じように大切——という認識です。

そこで町では、みなさんの余暇の過ごし方——自然に親しむ志向・健康志向などを考え、今年度から五カ年計画で、野田山を中心に「野田山保健休養林造成事業」を開始することになりました。今月は、この話を少ししてみます。

### 大師広場を中心に 五つの広場を

事業所、スポーツ愛好会などにより、さまざまな行事に利用されていますが、河川敷内は建築物・高木植樹などに建設省の許可条件があつて規制されているので、公園としての整備が制限され、私たち町民の保健休養機能を果たすことが不十分である——という理由からです。

つきに、この公園内には、どのような施設ができるかみてみましょう。（三ページの図参照）

①大師広場（九千四百平方メートル）  
多目的利用の芝生広場で、東屋や便所・野外炉・人造池などを作りります。

②金丸山広場（二万六千八百平方メートル）



齋藤 隆さん

毎日の日課である二匹の犬の散歩で、この日も中学校のあたりまでいくと、ゴ—という濁流の音と一緒にバリバリという音がするので鉄橋を見ると、高圧ケーブルが切れて火花が出ていました。そしてピーヤがそのまま富士川に沈んでいきました。それもスローモーションで。貨物列車が通過してすぐだったな——

### 齋藤の人生

8月2日未明、愛知県渥美半島に上陸した台風一〇号の影響で、国鉄富士川橋の下り鉄橋のほぼ中央部、当町から四基目の橋ゲタと現在廃線となっている海側鉄橋の四基目、長さ百二十メートル、二日前前5時過ぎ、いずれも橋脚もろとも流失し、東海道の大動脈は寸断状態となりました。

そこで、この鉄橋流失を真先に富士川駅に通報した齋藤隆さん（坂下）に、当時の様子を話してもらいました。

### 野田山の伝説

#### 野田山の大蛇

昔、中之郷の野田山の頂上に池があつてな。池のほとりの路の葉っぱの上に体がちいせいのに目だけ大きい蛇がいたつて。ある日、草刈りに来た人が、この池のほとりで鎌を研いでいて、この蛇をめぐって（見つけて）鎌で、いたずらにたたいたらな。蛇が怒つてな。池の中に入っていくと、池の表で、ぐるぐる回っているうちにだんだん大きくなってな。とうとう大蛇になったんだつてき。

火の玉

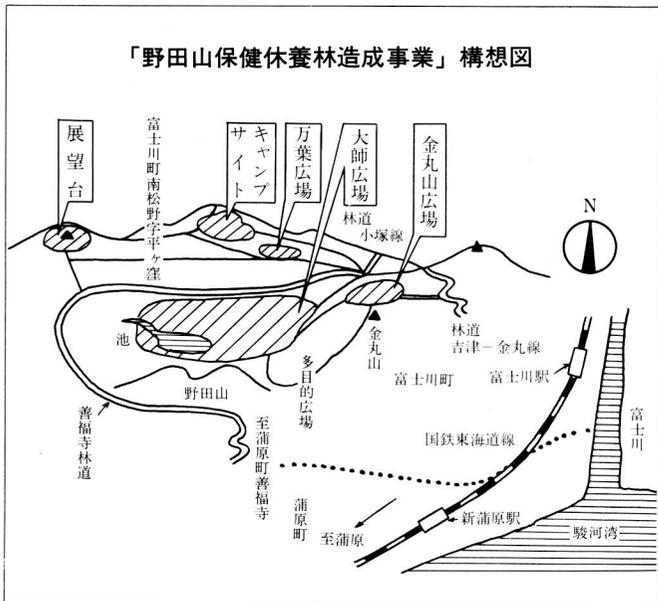
昔、中之郷の人たちが野田山のかつちき場で草を刈っていた時です。

北のスズリ石の方の谷間からゴ—というものすごい音が聞こえてきました。なんだろうと音のする方をみますと、真っ赤に燃えた火の玉が、男たちのいる方に飛んできます。みんなはおもわず地面に伏しました。

火の玉はみんなのいる所を越えて蒲原の善福寺の方に行つてしまいました。昼間だというのに火の玉はよく見え、白い尾のようなものがあつたそうです。

ふるさと富士川（第二集） 「昔ばなし 伝説」から

### 「野田山保健休養林造成事業」構想図



- ① 青少年の体験教育のため、スポーツ広場（三十メートル×三十メートル）二面や芝スキー場・小中学校の教科書に出てくる樹木などを集めた樹木園・展望台・農園・広葉樹林を植栽して野鳥誘致園・東屋・便所などを作りります。
- ② キャンプサイト（一万四平方メートル）
- ③ キャンプサイト（一万四平方メートル）
- ④ 万葉広場（三千二百二十平方メートル）憩いの場や休息場にするため

ベンチなどの休憩施設を設ける他、万葉集などに出てくる樹木を植栽し、野鳥を増やして人間と鳥が接することのできる場を作りります。

⑤ 展望台（一千五百平方メートル）

ベンチを設置する他、修景などをを行います。

さらに金丸山広場、林道吉津—金丸線、キャンプサイト、林道小塚線（現在開設中）を結ぶ自動車道（幅員三メートル）や、各施設間を結ぶ七つの遊歩道（幅員二メートル）の開設、そして静清庵遊歩道の一

### 今年度は 植栽工が中心

部改良なども行います。

また、私たちが車で野田山に向う道としては、昭和55年3月に完成した林道吉津—金丸線や、同線に途中で接続する川坂山林道があります。これらとは別に町道富士川—由比線の南松野の山地から、来年度に林道小塚線が野田山まで開設される予定です。

昭和57年度  
大師広場—植栽工・修景工・園地造成・便所

万葉広場—植栽工・修景工・園内歩道

展望台—植栽工・修景工

その他—遊歩道（改良）ベンチ

昭和58年度  
大師広場—水路・人造池・歩道橋・野外炉・東屋・階段

昭和59年度  
金丸山—植栽工・園地造成・造成工・歩道・管理道開設・管理道改良・東屋・ベンチ給水施設

昭和60年度  
給水施設

### 事業費は 約一億五千万円で

最後に、事業費について話すと、総額は先に記したとおり約一億五千四百万円です。その内訳は県補助金が約三分の一、残りが町負担となります。そして初年度の今年度は県補助金が一千万円、町費二千万円の総額三千万円が予算化されています。また、工事の発注も近々行われる予定です。

ですから、この公園が昭和61年に完成するころには中央公民館もでき、都市化が進んでいる富士川町も、文化・スポーツの両面で一躍先進市町村の仲間入りすることになるでしょう。



# ママさん記者が取材中

## ～社会福祉協議会～

8月2日、台風一〇号が中部日本を横断、各地に大被害が相次いだ中、幸いにも富士川町には被害もなく予定通り「富士川町社会福祉協議会」を私たちは訪問することができました。社会を明るくする運動や心配ごと相談所・歳末助け合い運動など、わずかな知識しか持たない私たちを、望月計夫局長さんが事務局のある老人福祉センター内の一室に案内してくれました。

- 昭和54年6月(厚生省認可)国や県の指導により、社会福祉法人「富士川町社会福祉協議会」を設立して約三年(実質的には昭和55年5月発足以来二年余り)行政側の協力のもとに円満に進展しつつあるとのことです。また社協は地域住民のニードを把握して公的施策との連携をとりながら、民生委員・施設団体・ボランティアを始めとする住民の参加協力が最も必要であり、町内の十六の福祉団体の育成など、よりきめ細かくお
- ① 社会福祉事業に関する調査研究 企画調整連絡(国際障害者年としての活動の推進)
- ② 心配ごと相談所の開設(毎月20日) 結婚相談所の開設(毎月21日)
- ③ 善意銀行(民生課扱い)
- ④ 共同募金・赤十字募金の推進
- ⑤ 歳末助け合い運動
- ⑥ 世帯更生資金の受託運営(各種資金申込み、受付・償還事務)
- ⑦ しあわせを高める県民運動
- ⑧ 福祉を育てる県民運動
- ⑨ 献血推進運動
- ⑩ 社会を明るくする運動、住民の連帯による青少年の非行防止の援助
- ⑪ 町内福祉団体の指導育成(老人



左から望月局長と久保田・望月モニター

手伝いする自主団体組織であるとのこと。とはいえ、発足してからも日も浅く、法制化されていない組織のため、県からの補助金と募金活動配分金などが主な財源で経費の大部分が町の補助金でまかなわれているそうです。そして事務局は望月局長(専門員兼務)以下、主事一人(町から出向)と、町から業務委託の老人家庭奉仕員三人(内一人は専任員と兼務)の計五人で事務を分担し、民生課と密接な連携のもとに運営しているとのこと。つきに、仕事の内容をうかがいますと――

広報モニター 久保田豊子

## 社会教育からの提言 青少年と興味

今回は、中年と呼ばれる私たちがから見た若者の興味・関心の持ち方について考えてみたいと思う。まず、若者の興味のあると思われる対象を分類する中で、その特徴をひるい上げると――

- ① スピード感やスリルを味えるもの(スキー、マイカー、バイク)
- ② ナウな感覚で場面変化があるもの(テレビゲーム、ウインドサーフィン)
- ③ ギャンブルの要素を持ち遊戯的なもの(マジャン、パチンコ、スロットマシン)などにまとめられる。

これらに所属する一つひとつを眺めてみると、すべてカタカナ用語であることに気づく。いわば外来のものであり、戦後の高度成長の波によって流行したものが多い。しかも、これらには、将棋や囲碁のように複雑な思考を要しない単純さを持つ共通点がある。

つきに、興味・関心の度合について現代の若者はどうかというところ、一つのことに対して興味を持続させることは少なく、一定時間の中で性質を異にする興味を、いくつも満足させるといった「多芸多趣味」的傾向が強い。しかも、何かをする場合、個人が小集団で楽しむことが多くなっているとも言える。こうした特徴は、巨大なマスコミの力によって、若者の心をとらえゆきさぶり、ますます大きな流行として拍車をかけることになる。一時代前は、一つのことを多勢で長時間やり楽しんだことが、今はたくさんの方を少人数で、短時間でやるという逆の時代環境にある。

このことは是非については、大きな論点になるが、少なくとも時代感覚や背景がもたらした価値観の相違や、人間としての生き方についての混乱を十分に認識し、これから育つ子どもたちにどのような道を歩ませたらよいかを方向づける仕事は、今を生きている私たち成人の大きな仕事でもある。その課題解決を現実なものにするために、学校と地域が連携し、双方から代表が一同に会し、組織化された中で富士川町として検討され、取り組む必要がある。私たち町の社会教育係としても、年度間にこの実現に向けて、精力を傾注していきたいと思っている。

# 地震で怖いのは二次災害の火事

過去の例を見ても、大きな地震の時は必ずといっていいほど火災が発生しています。そして、地震そのものによる被害よりも火災による被害のほうが大きいことが分かります。約十万人の死者を出した関東大地震(大正12年、マグニチュード七・九)も、火災が発生しなかったら、あれほどの大惨事にならずに済んだといわれています。9月1日は「防災の日」地震が起こったら火事を出さないよう、また、火事になっても初期のうちに消し止めることを心掛けましょう。

## 消火のチャンス

大揺れの最中には消火できなくても、第二・第三の機会が残されています。そのチャンスを逃さず火を出さないための行動をとることが大切です。

- ◎大揺れの前の小さな上下動(初期微動)を感じた段階で、早目に火の始末をします。
- ◎火災は、その時の状況によって火に当たります。
- ◎石油ストーブによる火災は、出火後二分程度以内ならば、ぼや

程度で消火できることが実験で分かっていますので、あわてず確実に消しましょう。

## 火は元から断つ

グラツときたとき、初めの揺れ

が行動の自由を奪うほどのものではないときは、火の始末を先にすることが出来ます。しかし、いきなり激しく揺れるときは、テーブルや机など丈夫な家具の下に身を寄せ、しばらく様子を見ます。揺れが収まって行動できるようになったら、まず、大声で「火事を消せ！」と叫ぶこと。自分自身を冷静にするきっかけになるばかりか、隣近所への呼びかけにもなります。使用中のガスこんろなど、ガス器具は元栓を閉め、石油ストーブはコックを閉めて消し、電気器具類はコードを抜きます。

頼りになる隣近所  
最悪の場合を想定した自己防衛策を立て、ふだんから隣近所と話し合っておきましょう。



# 資料・東海地震 ① 60年間に於ける日本列島の变形

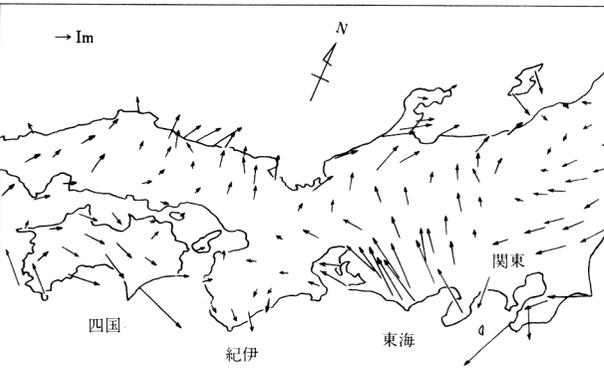
東大地震研 恒石幸正

左下の図は、国土地理院の原田健久・井沢信雄の両氏が、明治から昭和にかけての約六十年間に、日本列島がどのように形を変えたかを示すため、三角測量の結果を整理して画き、昭和44年に発表されたものです。東海地震というものが起こるかも知れないと地震学者たちが考え始める出発点となった重要な資料です。

矢印は、各地の三角点の移動を示しています。太平洋岸に沿って二つの大きな変動がみられます。関東地方と紀伊・四国を含む南海道地域の矢印は海側を向いています。ところが、東海地方の矢印は、反対に陸側を向いていることがわかります。

この事実に対して、東大地震研究所の茂木清夫氏は、次のような解釈をあたえました。

――日本列島は南と東の海側から徐々に押



# 戸籍の窓

57・6・1〜6・30届出(追加分)  
57・7・1〜7・31届出

(敬称略)

## おめでた

区名	出生児	保護者	続柄
八幡町	小池 千晴	満夫	二女
富士松野岡	真理子	和則	三女
儘下	小林 鮎美	貢	二女
小山	植松 大祐	角次	長男
上町	深瀬 雪恵	正	二女
旭町	青山 明子	力司	長女
大北町	小澤 巧	裕	長男

## 一里塚



8月はじめの大雨は、各地で大きな被害をもたらしたが、わが富士川も、その穏し持つ大いなる力を久しぶりに示した。あの日の朝、いつも大雨のあとと見に行くことにしている逢来橋に来てみて驚ろいた。今しも橋を乗り越えんばかりの勢いで、流れというより山のよくな水の生きものを見たからだ。今年六五歳の父も見て初めての経験だと語っていた。

水が豊かに流れ、自由に泳ぐことのできた二十年以上の昔に、幼年時代をすごした僕は、水量が

旭町	望月 紀幸	正司	長男
新町	清 暁子	行雄	長女
坂井	邦洋 博一	博一	二男
宮町	関 由香理	信夫	二女
小池	高瀬 宏紀	定雄	二男
幸町	菅原 有光	勝則	二男
南町一	土佐谷 博	栄明	二男
南町二	佐野 真也	洋	長男
富士松野宇佐美	鮎美	稔	二女
清水町	稲葉 基文	孝幸	長男
大北町	小澤 巧	裕	長男

非常に少なくなってしまう現在の富士川に、何ともいえない歯がゆさを感じていたが、そんな感傷めいたものを一切受けつけない、富士川の厳しさを、改めて思い知らされたものです。

さて、8月15日は富士川の川供養で、大北区では僕たちの隣保班が当番、朝から竹にワラで、川勤頂(カワカンジー)や投げたいまつ準備をした。夕刻、花火も上がって、いざ出陣という段になりかんじんのカワカンジーに乗る人がいないのである。増水のあとで近年になく流れも速い。つい先日の大水をだれも見ているから不安もなくはないが、昔とつたなんとやらで、乗りこんだのは、上は

大北町	伊藤 匡平	光男	長男
後藤 悠	格	長男	
宇佐美勇太	宗保	長男	

## かなしみ

区名	氏名	年齢
坂下	丸山健一郎	五六
新町	白鳥 ぎん	八一
四十九町	浦田 さだ	七二
官町	望月 コウ	五七
本通三	池上 巽	五二
本通四	石原 つる	七二
かぎあな	望月 うし	八五
八幡町	前田 利吉	七一
大北町	伊藤 義治	五五

## 町への寄付金

(敬称略)

十万円	社会福祉事業費へ
坂下 齋藤 雅義	
五千六百六十五円	
上町小中学生一同	
一千三百六十三円・雑布七十五枚	
小山美寿司会老人クラブ	

## 善意銀行へ寄付

57・7・1〜7・31



## おかあさんの知恵袋

「いまや主婦は作る人から、買ってきて並べる人——」などという批判もある。

栄養的にはともかく、どこにでもありそうな、ごく普通の献立が即座にできる。なんとなく感じる後めたさをさらりと捨てて、夕食のご飯をレトルト食品にし、ハンバーグの付け合せの野菜も惣菜売場のコールスローとポテトサラダにしてしまえば、さらに手間が省ける。

市場には、和・洋・中華風調理済み、半調理の加工食品や惣菜類が出廻っているのだから献立にことかくことはない。

「今の母親は、せいぜいオカアサンヤスメなのよ——」という話を聞いた。つまり家庭で作るのはオムレツ・カレー・サンドイッチ・ヤキソバ・スパゲティ・目玉焼きくらいだということだそう。

食事を家庭団らんの場合として楽しむ傾向が、最近出てきている。「料理」とは、材料の「料」と、調理の「理」からできた言葉だといわれているが、加工食品もわが家の味にアレンジして、うまく使いこなしたいと思う。今は、夏休みに入った子どもたちの食生活を考える時ではないでしょうか。

## 富士川短歌会

7月詠草(天野寛選)

本通り 長橋 安子  
幼少は山河にともに遊びにき兄は異国に癌病むときく

宮町 池田 てい  
雲海をぬけて登りし富士の山ハマナシの花今盛りなり  
本通り 望月 録  
この角をまがれば君の住居にて匂ひ来るなり庭の茗荷の  
静岡市 齋藤 典子  
青豆を剥きて指間にはじける土の香かコンクリート壁に

坂下 植松 秀子  
都恋ふ順徳帝のみ声とも配所の趾に松風をきく  
四十九町入月 弘子  
長々と説く人ありし会合の窓外の月しるしろ照りて

四十九町村山 越子  
コーヒーに時間をかけてミルク注ぐ魁夷展みしたかぶりおさえつつ  
南松野 上野みつ子  
山うがち岩の礎石に木を渡し観音堂の建ちて久しき  
新町 菊池 信義  
自販機の鍵置き忘れ幾日も飽かず捜しぬ気重くして  
本通り 高橋 勝治  
道芝の踏まれ踏まれなお生くる人の心もかくてありたし